
FAIRY TAIL ～とある妖精の転生物語～

ギルダーツ 3 世

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

FAIRY TAIL ～とある妖精の転生物語～

【Nコード】

N9063Y

【作者名】

ギルダーツ3世

【あらすじ】

フェアリーテイルの二次創作です（「」）

オリ主がフェアリーテイルの世界で暴れちゃいますwww

オリ主最強とかが苦手な方は少し体に悪いかもしれません。

基本的に作者のやりたいことをやるのでご都合主義かもwww

それでもいい人はよんでください。

感想、指摘もまっています。

ブローグ

突然ですが……

いま俺は真っ白な何もない部屋にいて、目の前にはお爺さんがお茶を飲んでいます。

……このいかにもテンプレな感じはアレだよね？目の前でお茶を飲んでるのは神様で、君はワシのミスで死んじゃったから転生してもらうぞ？的な事を言われるんだよね？

うわゝなんかテンション上がるなゝwww
チート能力と付けてもらえたりしてねww

でも待てよ・・・俺ってまだ死んでないような気がするんだけど・・・
・もしかして夢か？でも夢にしてはハッキリとしすぎだよね？

ハッ！？まさか俺って死んだのにも気付かないマヌケ野郎！？

うわゝ・・・バカだな俺orz

死んだのにも気付かないって・・・

「オイそこの若者、少しいいかの？」

ん？そういえばこのお爺さんって誰なのかな？
ホントに神様だったりしてな

「あのゝあなたはどちら様でしょうか？」

「あゝワシはの・・・神じゃ」

はい？・・・このお爺さん今、神って言ったよね？

「今、神って言いましたか？」

「ああ、言ったが？」

マジか？だったらいろいろ知ってるかもしれない！！

「つかぬことをお聞きしますが、もしかして俺って死にましたか？」

「いんや、死んでないぞい」

え！？死んでないの！？

じゃあ俺はマヌケ野郎じゃないのか！！
よかつたゝwww

ん？でもじゃあここはどこだ？

「ここはワシの家の自室じゃ」

「神様にも自分の家とか部屋ってあるんですか！？・・・じゃなくて

なんで俺がこんなところにいるんですか!？」

もうこの際、心を読まれたのはスルーだ!!

「それはちよつと言いつらいのじゃが・・・おぬしは最近犬を拾ったかの？」

「ああ、捨て犬がいたんでな」

「実はその犬の正体がワシの娘じゃったんじゃよ」

「はあっ!？」

なにそれ!？俺その犬と風呂とか一緒に入ってたぞ!？

「その娘がおぬしを好いてしまつての・・・まあそうゆうことじゃ」

しかも意味わかんねえし!!!

「ちよつとまてやコラ!!なんでそんな理由で俺が死ななきゃなんねえんだよ!？おかしいだろ!!」

理由によつちやコイツが神でも殴つてやる!!

「まあ茶でも飲んで落ち着け」

「落ち着けるかつてのバカ野郎!!はやく説明しろ!!」

「はあ、そもそもおぬしは死んでおらん」

「え!？・・・どうゆうこと？」

「つまりじゃな・・・可愛いワシの娘が大好きなおぬしのためにお

前さんの夢を叶えてあげてっていったから転生させてやろうかと思
つての」

何いってんのこの人!?

「俺、転生したいと思ってねえし!」

「・・・まあ過ぎた話はもうやめよう」

「過ぎてねえし、よくもねえ!!!」

「うゝん困ったの・・・じゃあチート能力を3つも持たせて転生さ
せてやるってのはどうじゃ?」

「いや、やっぱり俺はもとの生活に戻りたいので遠慮します。」

「それは無理じゃ」

「はあ?なんでだよ?」

「もうおぬしの存在消しちゃった」

「歯ア食いしばれエクソ神イイ!」

「まてまて!!本当にわかった!!この通りじゃ!」

そういつて俺に土下座する神

なんか俺が悪者みたいじゃんかよ・・・

「はあ、じゃあもういいから顔をあげてくれよ神様」

「あつそう？じゃあチートは3つなんでもいいぞ」

「テメエ反省してねエだろ！！」

「それよりもさっさと選ぶのじゃ」

「チツ！・・じゃあ能力は【メラメラの実】の能力と一方通行の【ベクトル操作】と【聖十大魔導の5倍の魔力量】で頼む」

「よし、では次はこの世界に行きたいのかの？」

「聞くまでもないだろ？もちろんフェアリーテイルの世界で頼む」

「よしでは行つてこい！！」

パカッ

下の方でそんな音がした・・

その瞬間、下に落下していく俺

「こんのクソ神イイ！！！！覚えてやがれ！！！！」

「達者でなあゝ」

プロフィール2（前書き）

主人公紹介

コウザール・アレクスター
竜崎光太

身長 175

体重 60

能力

【メラメラの実】 【ベクトル操作】

聖十大魔導の5倍の魔力量を有するが普段はネックレス型のリミッターを身に付けることで制御している。

性格

ノリがいい、嫌なことは何があってもやらない、逆に好きなことはやりとおす、めんどくさがり、キレるとコワイ、S、大食い

好きなもの

仲間、ご飯、だれかをいじること

嫌いなもの

敵、ウザいやつ、仲間^だに害をあたるもの、水

プロローグ2

《ヒューーーーーー》

「はぁー……マジであのジジイいつかブッ飛ばしてやるっ」

今、俺はジジイの出した穴に落とされてめっちゃ高いところから落下中なんだが……

「とりあえずどうやって着地するかだよな（チート能力は使い方がよく分からんし……）」

ああーこの世界に来たばっかなのに死んだかな俺？俺ってマジでマヌケじゃん……はぁ……ん？そういえば

「なんで俺はしゃべれてるんだ？」

俺は高速で落下中なので、空気の抵抗でしゃべることはもちろん、呼吸することすら困難な状況なはずだ

「どうゆうことだ？」

たしか俺がもらった能力は

【メラメラの実】

【ベクトル操作】

【聖十大魔導の5倍の魔力量】

だったから・・・普通に考えてベクトル操作が働いてるのか？でも超能力って難しい演算が必要だったよな？

「無意識に能力が発動してるのか？（まあどっちにしる死ぬか生きるかだし、生きてたらラッキーって事でいいか）」

《ヒューーーーーー（とか言っただけやっぱ無理だ！！）――うわああああタイムタアーム！！――ードッスン！――！！！！》

「・・・・・・生きてる？生きてるうー！！痛くもねえしどうゆうことだ！？」

《ペラッ》

「ん？なんだこの紙？」

『この手紙を読んでもということは無事に転生したようじゃなwwなかなか楽しかったじゃろ？ww』

「楽しくねえよ！！ふざけてンだろテメエ！！」

まあそれは置いておいてじゃ、まずは能力の説明からじゃな、【メラメラの実】と【ベクトル操作】の能力は、能力を使用しとる

自分をイメージすることで発動するようにしておいたぞ

。魔力量はまあそのまんまじゃ、けどあまりにも強大過ぎるゆえリミッターのようなものを作っておいたぞ。

その首にかかっているネックレスがそうじゃな。

それと今おぬしがいるのは原作の3年前でおぬしは15歳にしておいたぞ

あとおぬしの容姿なんじゃが、元の姿じゃと地味じゃったからカッコよくしといたぞいwww

おお！こいつにしては中々気がきくじゃん

そんなことでこれから俺がすることは、まあ能力の修行は大丈夫そうだから、先ずは、

「フェアリーテイルに入らないとな」

俺はフェアリーテイルへと歩みを進める・・

プロローグ2（後書き）

これでプロローグは終了です。

感想、指摘などお待ちしております。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9063y/>

FAIRY TAIL ~とある妖精の転生物語~

2011年11月27日22時59分発行